

令和3年度

# 事業報告書

自 令和3年 1月 1日

至 令和3年12月31日

公益財団法人 競走馬理化学研究所

## I 概要

令和3年度のわが国の競馬は、一部の競馬場で開催自粛があったものの、一昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大の中、社会的制限下での着実な開催の継続とインターネット投票の拡大に支えられ、その売り上げは中央競馬及び地方競馬ともに堅調に推移した。

こうした状況下、競走馬理化学研究所は、適切な感染予防の措置と対策を講じた上で、競馬の公正確保に不可欠な各種検査を着実に実施した。また、検査の国際標準化、効率化及び高度化を目指した研究開発を行うとともに、令和5年からの新検査の実施に向けた体制整備を進めた。

薬物検査事業においては、競馬主催者、飼料業者等からの依頼に応じて、競走馬、騎手、飼料等を対象に検査を実施した。また、ISO/IEC 17025の規格維持に必要な定期サーベイランスを受審し、フレキシブル認定への変更を含む認定の維持が認められた。

さらに、国際馬術連盟（FEI）によるラボ指定に基づき、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020）馬術競技馬の薬物検査を実施するほか、FEI依頼の海外馬術競技馬の薬物検査を開始した。

DNA型検査事業においては、血統登録機関等からの依頼に応じて、軽種馬の親子判定及び個体識別検査等を実施した。

研究事業においては、日本中央競馬会から委託された「治療薬物の薬物動態に関する研究」、「検査対象薬物の拡大に関する研究」及び「糖質コルチコイド投与後のマイクロRNA発現に関する調査・研究」の各テーマについて研究を実施した。

一般化学分析事業においては、馬伝染性子宮炎の検査、競走馬の遺伝子検査等を実施した。

「新薬物検査体制確立事業」においては、新薬物検査の開始に向けて、分析機器、設備及びシステムの整備と、新たな検査法を用いた薬物の使用実態調査を実施した。

また、国際競馬統括機関連盟（IFHA）及びFEIによるリモート審査をそれぞれ受審し、薬物検査機関としての認定又は指定を各機関より受けた。なお、IFHAによる現地審査は、感染症蔓延防止に伴う渡航制限の解除後に行われる予定である。

「競走馬の遺伝子ドーピング検査法確立事業」においては、遺伝子ドーピング検査の開始に向けて、検査機器の導入、遺伝子ドーピング物質及び遺伝子改変部位の検出法の評価・検証、実態調査、生体サンプルの全ゲノム解読等を行った。

## II 事業内容

### 1 薬物検査事業

#### 1) 競走馬の薬物検査

##### (1) 禁止薬物の検査（レース分）

検査件数 45,032 件

陽性件数 0 件

##### 中央競馬

競馬場	検査件数	競馬場	検査件数	競馬場	検査件数
札幌	504	中山	1,514	阪神	1,909
函館	433	東京	1,586	小倉	1,080
福島	432	中京	1,620	小計	10,376
新潟	1,298	京都	0	再検査	0
				計	10,376

##### 地方競馬

競馬場	検査件数	競馬場	検査件数	競馬場	検査件数
帯広	3,573	大井	3,300	姫路	1,114
門別	2,307	川崎	2,001	高知	2,994
盛岡	1,723	金沢	1,937	佐賀	3,014
水沢	1,563	笠松	796	小計	34,656
浦和	1,895	名古屋	3,269	再検査	0
船橋	1,842	園田	3,330	計	34,656

##### (2) 規制薬物の検査（レース分）

検査件数 2,342 件（日本中央競馬会 1,671 件、地方競馬主催者 671 件）

陽性件数 2 件

##### (3) 競技外検査

検査件数 5,166 件（日本中央競馬会 4,825 件、地方競馬主催者 341 件）

陽性件数 0 件

## 2) 飼料等の薬物検査

検査件数 974 件

陽性件数 1 件

依頼者	区 分				計
	カテゴリーA	カテゴリーB	カテゴリーC	イプラトロピウム	
日本中央競馬会	14	0	0	14	28
地方競馬主催者	2	0	0	0	2
飼料業者等	111	3	748	82	944
計	127	3	748	96	974

注 カテゴリーA : イプラトロピウムを除く全ての禁止薬物  
 カテゴリーB : 禁止薬物のうち自然界に存在する 15 薬物  
 カテゴリーC : IFHA において国際残留限界値が定められている 6 薬物

## 3) セール上場馬の薬物検査

検査件数 202 件 (日高軽種馬農業協同組合 143 件、  
千葉県両総馬匹農業協同組合 59 件)

陽性件数 0 件

## 4) 騎手の薬物検査

検査件数 41 件 (日本中央競馬会 0 件、地方競馬主催者 41 件)

陽性件数 1 件

## 5) 馬術競技馬の薬物検査

### (1) 日本馬術連盟からの薬物検査

検査件数 19 件

陽性件数 0 件

### (2) FEI からの薬物検査

検査件数 304 件

陽性件数 6 件

### (3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会関連の薬物検査

#### ① 競技検査

検査件数 172 件 オリンピック 106 件 (東京オリンピック・パラリンピック  
パラリンピック 66 件 組織委員会)

陽性件数 0 件

## ② 到着前検査

フルスクリーニング	検査件数	178 件	オリンピック	137 件	(9つの国又は地域の馬術連盟)
			パラリンピック	41 件	(7つの国又は地域の馬術連盟)
	陽性件数	17 件			
エレクトィブ	検査件数	5 件	オリンピック	5 件	(3つの国又は地域の馬術連盟)
			パラリンピック	0 件	
	陽性件数	0 件			

## 6) その他の薬物検査

### (1) 育成馬のアナボリックステロイド検査

検査件数	76 件	(日本中央競馬会)
陽性件数	0 件	

### (2) 海外交流競走出走予定馬の薬物検査

検査件数	1 件	(日本中央競馬会)
陽性件数	0 件	

### (3) その他の薬物検査

検査件数	25 件	(日本中央競馬会 6 件、地方競馬主催者 19 件)
陽性件数	0 件	

## 7) 薬物検査法審議委員会

### (1) 委員

氏名	職名等	備考
尾崎 博	岡山理科大学獣医学部教授	
川原 貴	日本スポーツ協会 アンチドーピング部会部会長	
輿石 一郎	群馬大学大学院保健学研究科教授	
下田 実	東京農工大学名誉教授	
豊島 聡	日本薬剤師研修センター理事長	
本間 浩	薬学教育協議会代表理事	
吉田 武美	薬剤師認定制度認証機構代表理事	

任期：令和2年4月1日～令和4年3月31日

## (2) 委員会の開催

諮問する案件がなかったため、開催はしなかった。

## 8) 技能試験への参加

公認競馬化学者協会（AORC）が各国の競走馬の薬物検査機関に対して毎年提供する技能試験に参加し、正答率 100%の成績を収めた。

## 9) 会議及び学術集会への参加

新型コロナウイルス感染症の影響で令和 3 年 10 月に開催が延期されていた第 23 回競馬分析化学者及び競馬獣医師の国際会議（ICRAV）は、さらに 1 年延期となった。

11 月 25 日に日本中央競馬会本部で開催された第 23 回禁止薬物問題に関する連絡協議会に、委員 1 名、諮問委員 1 名を参加させた。

## 10) ISO/IEC 17025 認定の維持

### (1) ISO 試験所認定審査の受審

10 月 21 日及び 22 日に日本適合性認定協会（JAB）による ISO/IEC 17025: 2017（JISQ 17025:2018）第 10 回定期サーベイランスを受審し、フレキシブル認定への変更を含む試験所認定の維持が認められた。

### (2) 内部監査及びマネジメントレビューの実施

ISO/IEC 17025 の規格要求事項に則って、競走馬薬物検査業務に関する内部監査を延べ 23 回実施するとともに、マネジメントレビューを 2 月 27 日に実施した。

## 2 DNA 型検査事業

### 1) 軽種馬の親子判定及び個体識別検査

#### (1) 親子判定検査

検査件数	7,596 件	(ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)
親子関係否定例	0 件	

#### (2) 個体識別検査

検査件数	352 件	(ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)
------	-------	--------------------------

## 2) 軽種馬の毛色の遺伝子検査

検査件数 836 件 (ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)

## 3) 馬の新生子黄疸予防のための血液検査

検査件数 53 件 (日本軽種馬協会)

## 4) その他の検査

### (1) ユニバーサルドナー選定のための検査

検査件数 51 件 (生産者他)

### (2) 軽種馬以外の DNA 型検査

検査件数 128 件 (日本馬事協会他)

### (3) 軽種馬以外の毛色の遺伝子検査

検査件数 20 件 (日本馬事協会)

### (4) 性染色体の検査

検査件数 1 件 (生産者)

## 5) 技能試験への参加

国際動物遺伝学会 (ISAG) が実施するホースコンパリゾンテスト 2020-2021 に参加し、正答率 100%の成績を収め、ランク 1 を取得した。

## 6) 会議及び学術集会への参加

7月26日から30日まで開催された第38回 ISAG 学術集会 (オンライン会議) に職員2名が参加し、海外における親子判定検査の動向や最新の研究に関する情報収集と意見交換をするとともに研究成果を発表した。

### 3 研究事業

#### 1) 日本中央競馬会からの委託研究

##### (1) 治療薬物の薬物動態に関する研究

本研究は、治療のために使用されるオロパタジン及びトラネキサム酸について、休薬期間設定のための検出時間を求めることを目的とする。薬物を投与した馬から採取した尿及び血漿を高速液体クロマトグラフィー/タンデム質量分析法により分析し、試料中の薬物及び薬物の代謝物を定量して濃度推移を調べ、スクリーニングリミット検出時間を定めるために必要な値を算出した。

##### (2) 検査対象薬物の拡大に関する研究

本研究では、運動能力を向上させる薬物としてその使用が問題視されている低 酸素誘導因子活性化薬である IOX4 について薬物検査において最適な検出物質を選定することを目的とする。薬物を投与した馬から採取した尿及び血漿を高速液体クロマトグラフィー/高分解能質量分析法により分析し、試料中の薬物及び薬物の代謝物を定量して濃度推移を調べ、薬物検査において最適な検出物質を選定した。さらに半年程度前までの IOX4 投与を検査することのできる毛髪試料分析法を開発した。

##### (3) 糖質コルチコイド投与後のマイクロ RNA 発現に関する調査・研究

本研究は、3 年計画で実施し、糖質コルチコイドが生体に及ぼす影響を客観的に評価するバイオマーカーとして利用可能なマイクロ RNA の網羅的解析法の開発及び薬物検査で検出された糖質コルチコイドの由来を判断する方法の確立を目的とする。

2 年目となる令和 3 年度は、昨年度に実施した糖質コルチコイド投与実験の血漿サンプルを用いて、新規・既知マイクロ RNA の検出及び発現量測定を行う網羅的解析を実施した。更に薬物の投与前後で有意な発現量の変動が認められたマイクロ RNA について、機能解析を実施した。その結果、薬物効果を反映するバイオマーカーの候補として 45 種のマイクロ RNA を、内因性ヒドロコルチゾン分泌を反映するバイオマーカーの候補として 11 種のマイクロ RNA を確認することができた。

##### (4) 委託研究成績の報告

令和 2 年度日本中央競馬会委託研究の成績を報告書に取りまとめ、11 月 26 日に日本中央競馬会馬事公苑宇都宮事業所において報告会を開催した。

#### 2) 農畜産物等に使用される薬品及び薬剤等を対象とする理化学的研究及び衛生学的研究

令和 3 年度は該当する研究は行われなかった。



## 4 一般化学分析事業

### 1) 馬伝染性子宮炎の検査

検査件数 2,159 件 (日高家畜衛生防疫推進協議会他)

陽性件数 0 件

区 分	検査件数
馬伝染性子宮炎侵入防止事業	1,359 件
馬伝染性子宮炎蔓延防止事業	316 件
その他 (上記事業以外)	484 件

### 2) 競走馬の遺伝子検査

#### (1) スピード遺伝子検査

検査件数 165 件 (馬主他)

#### (2) 体高遺伝子検査

検査件数 164 件 (馬主他)

### 3) その他

#### (1) 木曾馬種の保存事業における受託研究

受託件数 1 件 (木曾町)

#### (2) 血漿中の薬物の濃度測定

受託件数 3 件 (日本中央競馬会)

#### (3) 海外輸出馬の薬物検査

検査件数 2 件 (日本軽種馬協会)

#### (4) 重種馬におけるユニバーサルドナー適性に関する調査

調査件数 1 件 (家畜改良センター十勝牧場)

## 5 新薬物検査体制確立事業

本事業は、国際標準を満たす新検査法を用いた薬物検査体制を構築することを目的とし、日本中央競馬会からの助成により4年計画で実施している。3年目となる令和3年度は、IFHA及びFEIによる薬物検査機関の指定を取得した。また、新たな薬物検査体制の構築に必要な事業を実施した。

### 1) 分析機器・システムの整備

液体クロマトグラフ高分解能質量分析計等の分析機器等を購入し、薬物の使用実態調査及び新薬物検査体制に必要な検査機器、設備を整備した。

#### ① 購入検査機器

検査機器名	数量
液体クロマトグラフ高分解能質量分析計	4
液体クロマトグラフタンデム質量分析計	2
自動固相抽出装置	4
窒素発生装置	5
超低温フリーザー	2
冷蔵庫	2

#### ② 購入設備及びシステム

設備及びシステム名	数量
入退室管理システム改造	1
校正室	1
大型圧縮空気発生装置	1
薬物検査システム1次開発	1
LIMS2次開発(前期分)	1
その他汎用設備(実験台等)	50

### 2) 国際的な薬物検査機関としての指定の取得・維持

IFHA 薬物検査機関指定は、5月に現地審査に代わるリモート審査を受審し、7月に執行協議会からIFHA Reference Laboratoryの承認を受けた。今後、行われる現地審査により、正式なラボ指定となる予定である。

また、FEI 薬物検査機関指定は2月にリモート審査を受審し、同月に理事会からFEI Approved Laboratoryの指定を受けた。

### 3) 競馬検体を用いた実態調査

新検査法を用いて、約 800 件（尿約 500 件、血液約 300 件）の国内レース検体を対象とした薬物の使用実態を調査するとともに、分析データを集積しながら、必要に応じたデータ解析法の改良を行った。

## 6 競走馬の遺伝子ドーピング検査法確立事業

本事業は、日本中央競馬会の助成により令和2年度より3年計画で実施している。2年目となる令和3年度は、検査用機器を導入して検査体制の整備を行うとともに、遺伝子ドーピング検査法の確立に必要な分析法の評価等を実施した。また関連する国際会議に参加した。

### 1) 検査用機器の整備

遺伝子ドーピング検査に必要となる機器としてデジタルPCR装置や小型分注装置等の機器を購入し、多検体処理が可能な検査体制の整備を行った。

検査機器名	数量
デジタルPCR装置	1
小型分注装置	1
冷蔵庫	2
冷凍庫	2

### 2) 遺伝子ドーピング検査法の確立

#### (1) 遺伝子ドーピング物質分析法の評価

遺伝子ドーピング物質のコピー数が検出限界域の検体において、陽性及び陰性の判定が困難な例が認められたため、分析法の改良研究を実施し、新たに Nested Digital PCR法を開発した。本手法によって検出限界域の判定が容易となり、従来の分析法よりも長期にわたって遺伝子ドーピング物質を検出できるようになった。

#### (2) 遺伝子改変検出法の開発

遺伝子改変の痕跡を検出する分析法として、毛根検体を利用したターゲットリシーケンスによる検出法の検討を行い、約50遺伝子を一斉検出できる手法の開発を行った。また、当歳馬の毛根検体120件を用いて、遺伝子改変検出法の評価・検証を実施した。

#### (3) 実態調査

日本中央競馬会トレーニングセンター入厩検疫時に採取した血液検体2,005件に対して実態調査を実施した結果、全て陰性であることが確認された。

#### (4) 生体サンプルバンク

遺伝的健全性対策の一環となる生体サンプルバンクを構築するために、日本中央競馬会トレーニングセンター入厩検疫時に採取した生体試料 5,079 件を冷凍保管した。また、その内 5 件を対象に全ゲノム解読を実施して、サラブレッドの全ゲノム解読データベース情報を追加・更新した。

#### (5) その他

質量分析装置を使用した核酸医薬品の検出法を開発した。

### 3) 会議及び学術集会への参加

下表に示す国内外の会議及び学術集会（オンライン等）に出席し、海外の遺伝子ドーピング及び遺伝子改変に関する動向や最新の分析技術及び開発手法について情報収集と意見交換を行った。

期 間	場 所	会 議 名	員数 (名)
2月11日、4月21日、 6月24日、9月1日、 10月28日	(オンライン)	ドロシー・ラッセル・ハブマイヤー基金 国際馬ゲノムワークショップ 2021	1
3月29日	(オンライン)	AORC 遺伝子ドーピング特別委員会	1
4月14日、8月30日、 12月8日	(オンライン)	IFHA 遺伝子ドーピング規制小委員会	1
6月22日、10月5日	(オンライン)	国際馬スポーツ連合 (IHSC) 遺伝子ドーピング専門家会議	1
7月26日～30日	(オンライン)	第38回 ISAG 学術集会	1
7月12日～14日	栃木	第47回 BMS コンファレンス	1
9月15日	(オンライン)	国際血統書委員会 (ISBC) 第46回年次会議 ISBC 戦略会議	1
10月14日	北海道	第49回生産地における軽種馬の疾病に 関するシンポジウム (日本中央競馬会)	1
11月29日	東京	第63回競走馬に関する調査研究発表会 (日本中央競馬会)	1
12月1日	(オンライン)	競馬獣医師国際会議 (IGSRV) 2021 年度総会	1
12月1日～3日	神奈川	第44回日本分子生物学会年会	1

## 7 その他事業

令和3年度は該当する事業はなかった。

## 8 その他

1) 研究成果を普及・啓発し、関連する学術の振興に寄与することを目的として、学会発表、論文報告、書籍及び雑誌への投稿を行った。また、講師派遣、広報活動、取材及び見学の受入れを実施した。

### (1) 学会発表

表 題	報告学会等
遺伝子ドーピング検査における確認検出法の開発	第63回競走馬に関する調査研究発表会
競走馬のドーピング検査におけるメタボロミクスの応用	
スポーツと競馬産業における遺伝子ドーピング問題	第47回BMSコンファレンス
Genetic diversity and relationship among European, Asian and Japanese horse breeds	AA研究共同利用・共同研究課題「アジア・アフリカ地理言語学研究」研究集会
サラブレッドの遺伝子改変検査と全ゲノムデータベース構築	第49回生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム
Rare and common variant discovery by whole-genome sequencing of 101 Thoroughbred racehorses	第44回日本分子生物学会年会
Rare and common variant discovery by whole-genome sequencing of 101 Thoroughbred racehorses	第38回ISAG学術集会
Availability of whole genome sequencing database for selecting SNP marker in Thoroughbreds	
Evaluation of SNP markers for parentage testing in the draft horse population	

## (2) 論文報告

---

### 表題、著者、報告誌

---

Detection and longitudinal distribution of GW1516 and its metabolites in equine hair for doping control using liquid chromatography/high-resolution mass spectrometry.

Ishii H, Shibuya M, Leung GN, Nozawa S, Yamashita S, Yamada M, (Kushiro A), (Kasashima Y), (Okada J), (Kawasaki K), Kijima-Suda I.

Rapid Communication in Mass Spectrometry. 2021, 35(8), e9050.

---

Robustness of digital PCR and real-time PCR in transgene detection for gene-doping control.

Tozaki T, Ohnuma A, (Iwai S), Kikuchi M, Ishige T, Kakoi H, Hirota K, (Kusano K), Nagata S.

Analytical Chemistry. 2021, 93, 7133-7139.

---

Rare and common variant discovery by whole-genome sequencing of 101 Thoroughbred racehorses.

Tozaki T, Ohnuma A, Kikuchi M, Ishige T, Kakoi H, Hirota K, (Kusano K), Nagata S.

Scientific Reports. 2021, 11, 16057.

---

Robustness of digital PCR and real-time PCR against inhibitors in transgene detection for gene doping control in equestrian sports.

Tozaki T, Ohnuma A, Kikuchi M, Ishige T, Kakoi H, Hirota K, (Kusano K), Nagata S.

Drug Testing and Analysis. 2021, 13, 1768-1775.

---

Simulated validation of intron-less transgene detection using DELLY for gene-doping control in horse sports.

Tozaki T, Ohnuma A, Kikuchi M, Ishige T, Kakoi H, Hirota K, (Kusano K), Nagata S.

Animal Genetics. 2021, 52, 759-761.

---

Design and storage stability of reference materials for microfluidic quantitative PCR-based equine gene doping tests.

Tozaki T, Ohnuma A, Kikuchi M, Ishige T, Kakoi H, Hirota K, (Kusano K), Nagata S.

Journal of Equine Science. 2021, 32, 125-134.

---

Control of gene doping in human and horse sports.

Tozaki T, (Hamilton NA).

Gene Therapy. 2021, doi:10.1038/s41434-021-00267-5.

---

Sequence determination of phosphorothioated oligonucleotides using MALDI-TOF mass spectrometry for controlling gene doping in equestrian sports.

Tozaki T, (Kwak HG), (Nakamura K), (Takasu M), Ishii H, Ohnuma A, Kikuchi M, Ishige T, Kakoi H, Hirota K, (Kusano K), Hirata M, Nirasawa T, Nagata S.

Drug Testing and Analysis. 2021, doi:10.1002/dta.3154.

---

Low-copy transgene detection using nested digital polymerase chain reaction for gene-doping control.

Tozaki T, Ohnuma A, Hamilton NA, Kikuchi M, Ishige T, Kakoi H, Hirota K, (Kusano K), Nagata S.

Drug Testing and Analysis. 2021, doi:10.1002/dta.3173.

---

Investigation of erythrocyte antigen frequencies in draft horse populations in Japan to assess blood donor suitability.

Kakoi H, Kikuchi M, Ishige T, Nagata S, (Hirosawa Y), (Tanaka S), (Kishinami T).

Journal of Equine Science. 2021, 32, 17-19.

---

Comparison of seven nucleic acid amplification tests for detection of *Taylorella equigenitalis*.

(Kinoshita Y), Kakoi H, Ishige T, (Yamanaka T), (Niwa H), (Uchida-Fujii E), (Nukada T), (Ueno T).

Journal of Veterinary Medical Science. 2021, doi:10.1292/jvms.21-0539.

---

Medication control of flunixin in racing horses: Possible detection times using Monte Carlo simulations.

(Kuroda T), Minamijima Y, (Nomura M), Yamashita S, Yamada M, Nagata S, (Mita H), (Tamura N), (Fukuda K), (Kuвано A), (Kusano K), (Toutain P-L), (Sato F).

Equine Veterinary Journal. 2021. doi:10.1111/evj.13532.

---

ゲノム考古学からのウマの家畜化と日本在来馬の起源に関する最新の知見.

戸崎晃明, Hippophile, 2021, 86, 12-15.

---

競馬産業における遺伝子ドーピングコントロール

戸崎晃明, 大沼葵, 菊地美緒, 石毛太郎, 廣田桂一, 梶裕永, (草野寛一), 永田俊一, 動物遺伝育種研究 2021, 49, 19-29.

---



### (3) 書籍及び雑誌への投稿等

表 題	雑 誌
第1章 在来馬の遺伝的背景	日本の馬 在来馬の過去・現在・未来 (2021年10月5日 p15-34)
ニッポンの馬はどこからやってきた?	ひととき 特集「ニッポンの馬の話」 (2021年9月号 p36-37)

### (4) 技術指導

月 日	依 頼 元	内 容
4月19日 11月5日	日本大学大学院 獣医学研究科	馬の遺伝学的研究及びゲノム解析
11月11日 ～12日	(公財) ジャパン ・スタッフブック・インターナショナル	DNA型検査研修

### (5) 講師派遣 (オンラインを含む)

月 日	依 頼 元	内 容
1月27日 1月29日	宇都宮大学農学部	生物資源科学特別講義Ⅰ
4月26日	岐阜大学応用生物科学部 ・鳥取大学農学部 (共同獣医学科)	共同獣医学科5年科目 馬臨床学
5月19日	(公財) ジャパン・スタッフブック ・インターナショナル	遺伝子改変検査に関するセミナー 生産期の遺伝子ドーピング管理
6月9日	東京農業大学農学部	特別講義 競走馬の科学
9月28日 ～29日	(公社) 日本軽種馬協会	馬伝染性子宮炎—採材法と治療法—に関する講習会 PCR検査について
12月5日	琉球新報	沖縄在来馬を知るシンポジウム

### (6) 広報活動

競走馬の遺伝子検査の普及のために、ブリーズアップセール(4月27日)及びセレクトセール(7月12日及び13日)において、来場者向けのパンフレットを設置した。

## (7) 取材受入れ

月 日	表 題 等	掲載誌等
5月1日	希少な白毛馬、快進撃続く ＝クラシック制覇のソダシ＝	時事通信社
5月18日	白毛のマシュマロと鹿毛のキンカメから 芦毛誕生・・・なぜ？	日刊スポーツ
5月21日	母から白毛の遺伝要因を継承したソダシ	サンケイスポーツ
10月9日	純白のサラブレッドたち ～白毛の軌跡、ソダシ誕生～	テレビ東京系列

## (8) 見学受入れ

月 日	見 学 者 等	内 容	員数 (名)
3月18日	地方競馬全国協会 地方競馬教養センター騎手候補生	見学・講習	4
4月8日	日本装蹄協会 装蹄教育センター 装蹄師認定講習会講習生	見学	18
4月21日	地方競馬全国協会 新規採用職員研修	〃	10
5月11日	日本中央競馬会 競馬学校 厩務員課程生	見学・講習	14
6月17日	日本中央競馬会 新規採用獣医職員	〃	6
8月3日	国際馬術連盟 獣医部長及び競技オペレーション部長	見学	2
11月17日	日本中央競馬会 競馬学校 厩務員課程生	見学・講習	28
12月9日	日本中央競馬会 総合企画部関連事業室長ほか	見学	4
12月14日	日本中央競馬会 臨床獣医職員ほか	見学・講習	4

- 2) 日本中央競馬会による施設の改修工事が前年に引き続き実施され、令和3年2月に遺伝子分析関連区域の工事を完了した。一方、薬物分析関連区域等の拡充は、東京オリンピック・パラリンピックにおける馬術競技馬の検査実施のための一時中断を経て、令和4年2月に竣工予定である。

### Ⅲ 総務関係

#### 1 評議員及び評議員会

##### (1) 評議員

氏名	職名等	備考
秋元 稔弥	地方競馬全国協会 理事	3月6日から 〃
岩元 正文	ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 理事	
上野 儀治	日本中央競馬会 理事	
木村 一人	日本中央競馬会 常務理事	
釘田 博文	国際獣疫事務局 アジア太平洋地域代表	
鈴木 邦則	全国公営競馬主催者協議会 常任理事	
田原 文夫	すかいらーく 社外取締役	
木所 康夫		3月5日まで
横田 貞夫		〃

任期：令和4事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

##### (2) 評議員会の開催

評議員会を次のとおり開催した。

##### 第1回評議員会 3月2日（書面による決議の省略）

（みなし決議事項）

議案 評議員の選任について

##### 第2回評議員会 3月19日（書面による決議の省略）

（みなし決議事項）

第1号議案 令和2年度事業報告及び決算について

第2号議案 役員の改選について

##### 第3回評議員会 11月2日（書面による決議の省略）

（みなし決議事項）

議案 監事の選任について

##### 第4回評議員会 12月10日

（決議事項）

議案 令和4年度事業計画及び収支予算について

## 2 役員及び理事会

### (1) 役員

役職名	氏名	主な経歴	備考
理事長 (常勤)	安齊 了	日本中央競馬会 監事	3月19日付再任
常務理事 (常勤)	側原 仁	競走馬理化学研究所 薬物分析部長	〃
	生野 等	地方競馬全国協会 理事	3月19日付就任
	岩崎 幸治	地方競馬全国協会 理事	3月19日付 任期満了退任
理事 (非常勤)	兼丸 卓美	日本中央競馬会 競走馬総合研究所長	3月19日付再任
監事 (非常勤)	佐藤 信博	日本中央競馬会 馬事部上席調査役	〃
	岩崎 幸治	競走馬理化学研究所 常務理事	11月9日付就任
	谷口 稔明	農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所長	3月19日付 任期満了退任
	杉野 繁治	地方競馬全国協会 監事	3月19日付就任 10月19日付 死亡退任

任期：令和4事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

### (2) 理事会の開催

理事会を次のとおり開催した。

#### 第1回理事会 2月19日

##### (決議事項)

第1号議案 令和2年度事業報告及び決算について

第2号議案 役員改選候補者の選定について

第3号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員就業規則の一部改正について

第4号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所会計規程の一部改正について

##### (報告事項)

1. 令和3年度第1回財産運用検討会の審議結果

2. 令和2年度収支予算の流用結果

## 第2回理事会 2月24日（書面による決議の省略）

（みなし決議事項）

第1号議案 評議員候補者の選定について

第2号議案 評議員会の決議の目的である事項の提案について

第3号議案 令和3年度第2回評議員会の招集について

## 第3回理事会 3月10日（書面による決議の省略）

（みなし決議事項）

議案 令和3年度第2回評議員会の開催を取り止めて書面提案とする件

## 第4回理事会 3月19日

（決議事項）

議案 代表理事及び業務執行理事の選定について

## 第5回理事会 6月25日

（決議事項）

第1号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所参与に関する規程の制定について

第2号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所参与及び嘱託に関する規程の一部  
改正について

第3号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所退職共済金規程の一部改正について

第4号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程の一部改正について

第5号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程実施基準の一部改正  
について

第6号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所旅費規程の一部改正について

（報告事項）

理事の職務の執行状況

## 第6回理事会 10月27日（書面による決議の省略）

（みなし決議事項）

第1号議案 監事候補者の選定について

第2号議案 評議員会の決議の目的である事項の提案について

## 第7回理事会 11月19日

### (決議事項)

第1号議案 令和4年度事業計画及び収支予算について

第2号議案 令和3年度第4回評議員会の招集について

第3号議案 令和4年度競走馬理化学研究所における新薬物検査体制確立事業実施要領の制定について

第4号議案 令和4年度競走馬理化学研究所における競走馬の遺伝子ドーピング検査法確立事業実施要領の制定について

第5号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所組織規程の一部改正について

第6号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職務権限規程の一部改正について

第7号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程実施基準の一部改正について

第8号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所嘱託に関する規程の一部改正について

第9号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所確定拠出年金の基本的事項に関する規程の一部改正について

第10号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所文書取扱規程の一部改正について

第11号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所倫理規程の一部改正について

第12号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所参与に関する規程の一部改正について

第13号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所退職共済金規程の一部改正について

### (報告事項)

1. 理事の職務の執行状況
2. 令和3年度第2回財産運用検討会の審議結果

## 3 人事異動

1) 参 与	就 任	1名	退 任	0名
2) 特別参与	就 任	0名	退 任	1名
3) 非常勤参与	就 任	1名	退 任	0名
4) 職 員	採 用	3名	退 職	0名
5) 嘱 託	採 用	1名	退 職	2名

## 役職員等の状況

区 分		1月1日現在	12月31日現在
役員	理 事	4 (1)	4 (1)
	監 事	2 (2)	2 (2)
参 与		1	2 (1)
職員	総 務 部	7	7
	薬物分析部	25	28
	遺伝子分析部	5	5
	品質保証室	3	3
	小 計	40	43
嘱託	総 務 部	1	0
	薬物分析部	15	14
	遺伝子分析部	1	1
	品質保証室	2	2
	小 計	19	17
合 計		66 (3)	68 (4)

括弧内は、非常勤の人数で、内数である。

## 4 附属明細書の省略

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項がないため、省略した。